

伊丹市内の「地車(だんじり)・太鼓」

林 亨

「だんじり」は一般に地車(だんじり、じしゃ、じぐるま)と書かれ、今では、村の氏神の祭りに華やかに飾られて練り歩くものである。元は祇園祭りに始まる。貞観5年(863年)朝廷による「御霊会」が催され、経典を講じ歌舞音曲を尽くす賑やかなものであったという。祇園祭りもこの御霊会が発展したものであり、貞観11年には悪疫流行により、日本66カ国の国数と同じ66本の鉾を作って牛頭天王を祭ったと言う。近世になって、まず大都市で特徴のある山・鉾・屋台を備えた祭りを育ててきた。例えば、東北地方の盛岡では宝永6年(1709)盛岡23町で出飾物、練物がだされ、また寛政時代に火消し山車が神社に奉納された。東京では元和2年(1616)神田祭りで山鉾36本が出た。大阪では天神丸の船だんじりが元禄元年(1688)に御座船に積まれて曳航された。享保9年(1724)天満宮で御輿太鼓・練物の宮入が行われた。大都会にあっても祇園の山鉾から発展して庶民の祭りに現れるには時間がかかった。地方の村々が地車・太鼓を祭りに結びつけるにはさらに遅れる。伊丹市の地車・太鼓は表の如くであり、すでに多くの地車・太鼓が近年になって失われている。文化財として次の世代に引き継がねばならない。

伊丹市内の「だんじり・太鼓」

神社名(場所)	内 容
猪名野神社(伊丹)	布団太鼓
天日神社(荒牧)	地車・住吉型(明治23年)
鴻池神社(鴻池)	地車(元・小浜の地車)
素戔嗚神社(西野北)	地車・塚型
東天神社(昆陽)	太鼓
西天神社(昆陽中の宮)	太鼓
猪名野神社(寺本)	地車(昭和初期)
天神社(千僧)	地車(休止)昭15には稼働
西皇大神社(小鹿)	太鼓
春日神社(東野)	太鼓(東野)大野は廃止
八幡神社(岩屋)	太鼓
加茂神社(森本)	太鼓
春日神社(口酒井)	太鼓
臂岡天満宮(鑄物師)	太鼓3台、1台解体保存
春日神社(荻野)	太鼓
伊丹市博物館	旧・湊町の地車解体保存
解散村;小阪田(伊居多神社)	太鼓(昭16年最後)
中村(素戔嗚神社で解散式)	太鼓
廃絶湊町(伊丹市博物館寄贈)	地車・文久2年(1862)
廃絶大手町(彫物一部尼崎に)	地車
転籍清水町(尼崎市清水町へ)	地車

＝秋季バス研修旅行＝

～「赤とんぼの里」龍野市を訪ねる～

服部 浩夫

11月8日秋晴れの中、恒例のバス研修旅行を実施いたしました。今回の目的地は「播磨の小京都」とも言われる龍野と兵庫県埋蔵文化財調査事務所です。

龍野の町は、15世紀末の赤松氏の時代から城下町として形成され、町割りは現在とほとんどかわらず、城下町としてのありさまを知ることができます。城跡、武家屋敷、町家、醤油蔵、静かで狭い町並みなど、いくつかの点で伊丹の町と似通っている印象をもちました。

主な見学先は、龍野市立歴史文化資料館（特別展 貨幣の歴史と兵庫の紙幣）・霞城館（三木露風、矢野勘治などの遺品、蔵書を展示）・県指定文化財の醤油資料館を徒歩時間も含む3時間のあわただしい行程の中での見学でした。

また、龍野公園近くにある「赤とんぼ歌碑」の前に立つとメロディが流れて郷土の誇り（三木露風）を童謡の里として生かしていることがうかがえました。

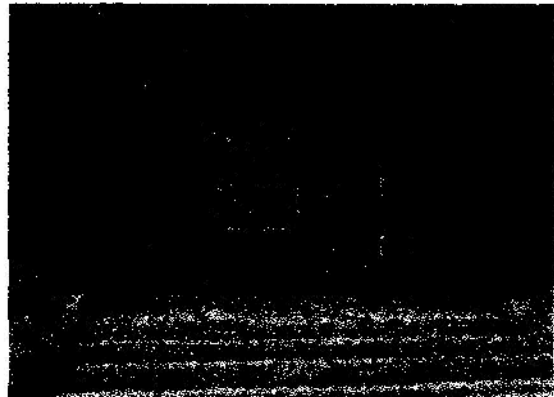
昼食は、兵庫県下で最初の国民宿舎として建てた「赤とんぼ荘」で松花堂弁当をいただき、次の目的地神戸へとバスを走らせました。

2号線バイパス・阪神高速経由で1時間30分、兵庫県庁近くにある県埋蔵文化財調査事務所に到着。調査専門員の案内で出土品の修復や保存の作業現場を見せていただき、その後館内にある展示室の貴重な収蔵品を見学いたしました。ここでの時間配分も1時間としており、すこし短かったと反省しています。

バスの中では、恒例のIさんのハーモニカ演奏にリクエストが続き、バスガイドさんの出番がなくなるほどに楽しませていただきました。

今回は「走る県民教室」の制度を利用して企画しましたので参加者からアンケートをいただきました。その中からいくつかの感想を紹介させていただきます。

- ☆ 龍野城の石垣、脇坂淡路守の赤穂城引取り時の資料を見たかった。
- ☆ 機会があれば再訪したい。
- ☆ 自然の豊かな文化に富んだ所、感激いっぱい満足。
- ☆ 「埋蔵文化財調査事務所」は、今回のようなチャンスがないと訪れることはない。
- ☆ どんぐり遺構の剥ぎ取りが面白かった。
- ☆ 時間が足りなかった。再度行ってみたい。
- ☆ 「走る県民教室」の制度を利用して、
県民として歴史・文化の資質を高めたい。



最後となりますが、ご参加いただいた皆様とふるさとの龍野市のGさんご夫妻にはお力添えをいただきありがとうございました。感謝申し上げます。

～～屋外研修 木曜グループ～～

＝市 最 西 端 を 行 く＝

山 元 龍 治

昨年11月22日(火)、木曜グループ担当の屋外研修に会員18名の参加を頂き、一部尼崎市を含む市の最西部を歩きました。

まず、曹洞宗の最禅寺でご住職の古結直応尼さんから、創建開山の聖瑞禅師のこと、伊予大洲藩主(加藤氏)のこと(池尻は南野一部と共にかつては大洲藩の支配地であつて、当寺は加藤氏の準菩提寺で



した。)、上島鬼貫のこと、梵鐘再製時の苦労話などを交えた法話を頂きました。それから、庚申塚で4本のムクノキの巨木を見て、市杵嶋姫社、春日神社を地元の東さんから詳しく説明いただきました。次に尼崎市に入り、天王寺川沿いの六幡顕彰碑を見て、今回の研修の目玉の一つと考えていましたコスモス園に向かいました。六甲山系や甲山を眺めながら暫く武庫川畔を歩きますと、待望の一面のコスモスのはずが、残念ながら花はありませんでした。つい2週間前の下見の時は密度の濃い赤に見惚れたものでした。今年は残暑が厳しく11月いっぱいは大丈夫の声を信じて案内したのですが、全く残念でした。

コスモスはメキシカン・アスターとも言われる通り、メキシコ原産のキク科の一年草です。18世紀末頃、ダリアと前後してスペインのマドリードの植物園長のホセ・カヴァニレスの元に送られ、この人によってコスモスと名づけられました。日本へは明治12年に東京美術学校に教師として赴任したラガーザと言う人がイタリアから種子を持参したのが広まったのだそうです。山上憶良が万葉集で秋の七草を詠んでいます。現在だったらコスモスは間違い無く選ばれていたでしょうね。

それから髻の渡し、髻の茶屋です。「山崎通分間延絵図」には、尼崎側の街道沿いに「髻茶屋」や「立場(たてば)＝人足が休息する所」と注記された建物も描かれているそうです。又渡しは明治の終わりに下流に甲武橋が架けられ西国街道の新道(現在の171号線)ができるまで続いていたそうです。

さらに武庫村道路元標を見て、再び伊丹市に戻り師直塚に行きそこで解散しました。3キロ弱の行程を予定通り所要時間約2時間でした。

主な行事予定 (2月～3月)

2月28日 (火)	ボランティア養成講座「岩屋遺跡の発掘調査」	職員会館 10時～
3月14日 (火)	3月度定例会	中央公民館
3月21日 (火)	ボランティア養成講座「史跡めぐり」	市内史跡

パソコン; 2/23、3/9 3/28 古文書; 2/14、3/14 どんぐり; 2/21、3/28

□□ 伊丹市立博物館 と大鹿会館を訪ねて □□

山内 冨美子

平成 18 年 1 月 24 日。前日は、伊丹市内にも雪が降る寒さでしたが、屋外研修の当日は、寒さも和らぎ、会員 22 名が、金曜グループの案内により、西国街道の沿線にある文化財を熱心に見ておりました。

まず博物館では、館長の小長谷さんから、今年度に入って新しく展示した品目を中心に常設展の説明を受けました。口酒井遺跡を中心に発掘された縄文・弥生時代の土器、後願塚古墳の円筒埴輪、伊丹麩寺跡の水煙、北園にあった中世寺院跡の梵字瓦、西国街道や村の街道で発見された道標など、実物を見ながらの説明に、私達は首肯しながら興味をもって耳を傾けました。

次に西国街道沿いに訪れたポイントを紹介します。行基が田畑、池などの開拓の達成を起源として猪名権現を祀ったのが始まりと伝えられる千僧天神社、伊丹で書いた「禁烟日記」のきざんである梶井基次郎碑、大鹿地区にある後塚、竹塚、そして元は真言宗の寺であったが、大旱魃の時大覚大僧正の祈禱により奇跡の雨が降り、村を挙げて法華宗に改宗したと伝えられる大覚山妙宣寺、境内に瑞ヶ池からの用水に使用した「茶わん樋」があることや市の保有樹木の多い西皇大神社などをまわりました。

最後に昨年新築されたばかりの木の香り豊かな大鹿交流センターで「旧西国街道」「有馬道と道標」「大鹿の村の歴史」についての発表があり、屋外研修のしめくりとしました。

主な活動記録 (郷町館ガイド他)

平成17年

平成18年

月日	曜日	案内要望の代表者	人数	月日	曜日	案内要望の代表者	人数
10月21日	金	伊丹市立北中学1年生	44	1月13日	金	伊丹市立北中学1年生	42
11月3日	木	有岡城址野点の会	300	2月2日	木	伊丹市立南小学校	115
11月5日	土	おのころ学園	50	2月5日	日	松陰会ハイキング	15
11月10日	木	文化財ボランティア三田	30	2月15日	水	伊丹市立摂陽小学校	77
11月25日	金	伊丹市立北中学1年生	42	2月19日	日	岡本歩く会	10
11月27日	日	瑞穂地区社協	80	3月22日	水	共助会泉州支部	25
12月16日	金	大阪歩く会	30	4月14日	金	阪神7市1町建設	50
12月17日	土	伊丹地区社協	40			宮縄連箱協議会	

編集後記

「春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪冴えて冷しかりけり」美しい日本のこころ 四季の移ろいを詠んだ道元禅師のうたです。寒い中にも陽の光に春を感じ、そしてまた新しい年度が始まります。この号でスタッフも交代です。過去の積み重ねが次の新しい年を生み出して行く事を願っています。